

# 園長のまなざし

## 第10回

### 母の思いと教師の心もち

田畑智枝

秋の気配が感じられる朝、今日は保育参加です。数名の保護者が先生として一日、子どもたちと過ごします。お母様と一緒にのがうれしくて、ニコニコ顔もあれば、ちよつぱり緊張しながら登園してくる子どももいます。

保育参加の後、毎回保護者にコメントを書いていたのですが、親の気持ちと教師の立場での思いの違いを、若い教師が学ぶ良い機会にもなっています。

数日前から、「ママは幼稚園にいつ来るの？」と楽しみに待っていた息子と、張り切って登園しました。ところが息子は私にべつたりでガツカリです。しばらくして園庭で鬼ごっこが始まり、私は年甲斐もなく本気で走り回り、くたくたです。お帰りの着替えでは、誰にも手を貸すこともなく、みんなの成長ぶりに驚いてしまいました。息子は誰よりも早く着替えが終わり、本を読んで待っていました。少し暇そうに見えました（ある母親のコメントより）



「自分の子どもが早く着替えができて、お母さんはあまりうれしくなさそう」「お母さんは、お着替えよりほかの所に気持ちがいつってしまうのかしら」「一番なんてすごい！ って褒めてあげてほしいわね」と、若い先生たちは子どもの気持ちばかりが気になり、母親の心情は、なかなか理解しかねているようでした。

お母様の気持ちは複雑なものです。子どもの性格も、心もちもよく知っているのに、頑張っていることを素直に喜べないのも親心なのでしょう。後できつと気付かれたと思いますけれど、親の欲目でつい期待してしまうのですね。

何気ない言葉かけも、意味のないように見える遊びも、子どもたちにとっては、心に残る大切な言葉や遊びで、全て学びの場なのです。何回か参加するうちに子どもの成長ぶりに驚かれ、お母様を見る目が変わり表情も優しくなるのが何よりうれしいことです。

(新松戸幼稚園園長)